

## 議員 青木 敬博

- 1 本市職員の生産性向上のため、職員用パソコンをマルチモニター化する考えはないか伺う。

(回答)

人口減少社会の中、職員一人一人の生産性を向上させることは非常に重要であると認識しております。

議員ご提案のマルチモニター化により複数の広い画面を使用することで、画面の切替え作業が無くなることから、広報紙の編集など複数の資料、データ等を参照しながら行う作業等について、効率化が期待できるものと考えております。

情報政策課において検証作業を行ったところ、庁内ネットワーク環境上において正常に作動し、セキュリティ上も問題がないことが確認できたため、今後、庁内の複数課において実証実験及び効果測定を行った上で、マルチモニターの導入を検討してまいりたいと考えております。

- 2 窓口手続における市民の負担を減らすとともに、窓口業務の軽減を図るため、ハンコレス及びオンライン申請へ取り組む考えはないか伺う。

(回答)

現在、国において新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、また、デジタル時代を見据えたデジタルガバメントの実現のため、行政手続における書面主義、押印原則、対面主義の見直しが図られているところであり、複数の自治体においても、押印原則の見直しなどについて、国と前後して、同様の取組が行われているものと承知しております。

本市のハンコレスの取組につきましては、新型コロナウイルス感染症の中、新しい生活様式などに対応し、また、市民の方などの利便性が向上するよう、本市の全ての事務事業を対象に押印の要不要について現在検討しており、国等と同様の取組を行ってまいりたいと考えております。

またオンライン申請につきましては、マイナンバー制度における「マイナポータル」と県下35市町で共同運用している「しずおか電子申請サービス」の2つのポータルサイトがありますが、本市においては、オンライン申請に対応している手続等が一部にとどまっている状況となっております。

来年9月には、国においてデジタル庁が創設される予定となっており、オンライン申請等にも大きな変革が起こることが想定されるため、国の動向に注視しつつ、オンライン申請の拡充を検討してまいりたいと考えております。

### 3 本市の政策を周知するため、デジタル広告を活用することは有効な手段であると考えられるが、いかがか。

(回答)

本市からの政策等の情報発信につきましては、広報紙である「広報いとう」を始め、ホームページやケーブルテレビ、コミュニティエフエム、更にはメールマガジンやフェイスブック等のSNSなど、様々な媒体を活用し、より幅広い市民の皆様や来遊客の皆様へ、分かりやすく、効果的に、必要な情報を正確にお届けできるよう努めております。

議員ご指摘のとおり、必要な人に必要な情報が届くよう、性別、年代、居住地等の情報を活用するなど、ターゲットを定め、市の政策をデジタル広告にて告知することは大変有意義であると認識しており、デジタル広告も含め各種メディアの特性を最大限に生かした効果的な広報を研究してまいります。

### 4 グリーンスローモビリティの地域公共交通としての活用について、見解を伺う。

(回答)

グリーンスローモビリティは、電動で、時速20km未満で公道を走る4人乗り以上のパブリックモビリティで、ゆっくりとした速度で、狭い道でも走行でき、高齢者も運転できるなどの特徴があり、県内では、沼津駅と沼津港を結ぶバス路線の一部の便において、令和2年3月から16人乗りの車両が運行されており、また、本市においても、

今月17日から、民間事業者により伊豆高原駅を中心に8人乗りの車両による実証実験が行われる予定であるなど、幅広く活用されております。

グリーンスローモビリティの地域公共交通としての活用につきましては、平成30年度に策定した「伊東市地域公共交通網形成計画」の中で、交通空白地域の解消に向けた取組として、新たな交通手段の導入を検討することを位置付けておりますので、今後、地域のニーズや交通事業者等のご意見を伺うとともに、今回の伊豆高原駅を中心に行われる実証実験の結果を参考にするなどし、新たな交通手段の一つとして検討してまいります。

## 5 大室山での花火大会を毎年実施する考えはないか伺う。

(回答)

今年度につきましては、新型コロナウイルスの影響で夏季の花火大会を全て中止としたことから、比較的感染状況の落ち着いた9月、10月に市民の皆様の厚生娯楽と誘客促進を目的に「伊東温泉秋花火」を企画し、その中で、市街地だけでなく市南部地域での開催についても検討した結果、市が主催する花火としては初めての試みである大室山での花火大会を開催したところであります。

開催に当たっての安全対策や交通対策につきましては、「大室山山焼き」で警備を担当している地元池区の消防団に協力を要請し、有事に備えて十分な人員を配置したほか、山頂での観覧につきましては、密になる状況を防ぐため、人数制限を実施するとともに観覧場所となる山頂遊歩道には転落防止ロープやLEDライトを設置するなど安全対策を講じて実施いたしました。

また、お客様の大半が車を利用して来場するものと想定されたことから、さくらの里駐車場など大室山周辺の駐車場を全て開放し、各駐車場に警備員を配置するなど車両の誘導や路上駐車対策にも万全を期したところであります。

これらの対策を講じたことで、大きな混乱も無く開催できたものと認識しており、また、観光関連団体の皆様や花火を観覧された多くの方から大変好評をいただいたものと考えております。

来年度以降につきましても、周辺の観光施設の皆様にご協力をお願いする中で、例年、

伊東海岸で実施しております夏季の花火大会の一部を大室山で開催することなどを含め、工夫をしながら継続的に開催してまいりたいと考えております。

**6 市民運動場人工芝生化事業については、本年度の実施を見送ることとなったが、来年度以降の実施の見込みを伺う。**

(回答)

市民運動場人工芝生化事業につきましては、生涯スポーツのまち伊東を目指す取組として、子供から高齢者まで幅広い世代が快適かつ安全に競技することができるよう、グラウンドや周辺環境の整備を本年度に実施する予定でございましたが、市民の安全と生活を第一に考え、新型コロナウイルス感染症対策事業を優先するため、事業の実施を見送ることといたしました。

しかし、その後のコロナ禍の状況を注視する中、大きな目的のひとつである周辺住民への砂ぼこり対策につきまして、今年度の地域タウンミーティングで改めて早期事業実施の要望がありましたことや、新型コロナウイルス感染症に対応した新しい生活様式においては、スポーツ活動が精神的な支えとなる大切なものであることを認識したところであります。

来年度の財源確保については大変厳しいことが予想され、現在、状況を見据えつつ検討を進めているところでありますが、市民スポーツの推進や競技力の向上とともに、スポーツ合宿の誘致など、スポーツツーリズムの目玉となりうる事業と考えていることから、スポーツ振興くじ助成金などを活用しながら事業を進めてまいりたいと考えております。